中学２年　国語科　教材別テスト⑪　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　君は「最後の晩餐」を知っているか（布施英利）／光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

本文も図版も載せていません。**教科書『国語２』の「君は「最後の晩餐」を知っているか」のページを開いたまま**解答します。この文章は、一枚の絵を**構図・遠近法・明暗**という観点で順に分析していく**説明文（鑑賞文）**です。「作品の事実」と「筆者の分析」と「筆者の主張」の三つを区別して読めているかがポイントなので、大問四は選択肢で読み取りを確かめ、記述で説明させる形にしています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問／読み⑩・書き⑩）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（美術・鑑賞の語彙・慣用句・対義語・類義語）	２点×７＝14点
	三	敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語の区別／言い換え／誤りの訂正）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「君は「最後の晩餐」を知っているか」の読解（12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　「画家」「展覧会」「鑑賞」「構図」「輪郭」など、**美術・鑑賞に関する語**を正しく読み書きできるか。

②　**敬語の三種類**を区別し、「いらっしゃる・おっしゃる・召し上がる」（尊敬語）と「伺う・申し上げる・いただく・拝見する」（謙譲語）を使い分けられるか。また**二重敬語**と**身内への尊敬語**という二大誤用を直せるか。

③　筆者の**呼びかけの語り口**が、読者を鑑賞に引き込む工夫であると気づけるか。

④　**遠近法（消失点）・四つのグループの構成・明暗**という三つの分析を、それぞれ「どんな効果があるか」という形で説明できるか。

⑤「知識をもって細部を見ることで鑑賞が深まる」という**筆者の主張**をとらえ、自分の言葉で言い直せるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	**がか**	⑪	**彩色**
②	**てんらんかい**	⑫	**彫刻**
③	**でし**	⑬	**焦点**
④	**ささ（える）**	⑭	**光線**
⑤	**かんしょう**	⑮	**観察**
⑥	**こうず**	⑯	**表情**
⑦	**えが（く）**	⑰	**印象**
⑧	**りんかく**	⑱	**疑う**
⑨	**そんしょう**	⑲	**鮮やかな**
⑩	**おどろ（く）**	⑳	**床**

小計　20点

【注意したい字】

①「画家」は「がか」。「がけ」と読まない。②「展覧会」は「てんらんかい」。「覧」は「見」を含む字。③「弟子」は「でし」。「ていし」ではない。④「支える」は送りがな「える」まで。⑥「構図」は「こうず」。「こうと」「こうどう」は誤り。⑧「輪郭」の「郭」は右が「おおざと（阝）」。⑪「彩色」は「さいしき」。「さいしょく」とも読むが、ここでは「彩」「色」の字が書けていれば正答。⑫「彫刻」の「彫」はさんづくり（彡）。「刻」は「亥＋りっとう」。⑬「焦点」の「焦」は、上が「隹」、下が「れんが（灬）」。「集点」「照点」は誤り。⑭「光線」の「線」は糸へん。「光船」は誤り。⑰「印象」の「象」を「像」と書く誤りが非常に多い。「印象」＝心に残る感じ、「画像」＝かたち、と使い分ける。⑱「疑う」は送りがな「う」まで。「疑がう」は誤り。⑳「床」は「ゆか」。「とこ」とも読む。④⑦⑩⑱⑲は**送りがなまで**必要。⑲「鮮やかな」は「鮮か」「鮮やか」で止めず、問題文の形に合わせて「鮮やかな」と書く。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「鑑賞」＝芸術作品のよさや美しさを味わい、理解すること。「**観賞**」（花や月などをながめて楽しむ）と書き分ける。この教材の中心になる語。
(2)	**イ**	「模写」＝もとの作品をまねて写し描くこと。「模」は「まねる」の意。「複写（コピー）」とのちがいにも注意。
(3)	**ウ**	「構図」＝画面の中で人や物をどう配置するか、その組み立て。この教材では「三人ずつ四つのグループ」という配置の話に直結する。
(4)	**ウ**	「目を奪われる」＝すばらしさに心をひかれ、つい見入ってしまう。「目を疑う」（信じられない）、「目を見張る」（おどろいて目を大きく開く）と区別する。
(5)	**ア**	「息をのむ」＝おどろきや感動のあまり、思わず息を止める。「息を殺す」（気づかれないように静かにする）とは別の慣用句。
(6)	**分散**	集中 ⇔ 分散。「拡散」も意味は近いが、対義語としては「分散」が最も適切。この教材では「視線が中央に集中する」という読み取りに関わる。
(7)	**ア**	「永遠」＝いつまでも続くこと。類義語は「永久」。イ「瞬間」は対義語に近い。ウ「当分」は短い期間、エ「過去」は時の区分で、いずれも類義語ではない。

小計　14点

三　敬語　（２点×８＝16点）

番号	解答	解説（使い分けのポイント）
(1)	**ア（尊敬語）**	「いらっしゃる」は「いる・行く・来る」の**尊敬語**。動作をするのは**先生（相手側）**なので、相手を高める尊敬語を使う。
(2)	**イ（謙譲語）**	「拝見する」は「見る」の**謙譲語**。動作をするのは**私（自分側）**。自分を低めて、相手を高める。
(3)	**ウ（丁寧語）**	「です・ます・ございます」は、聞き手に対して言い方をていねいにする**丁寧語**。だれを高めるかではなく、話し方の調子の問題。
(4)	**召し上がる** **（お食べになる）**	「食べる・飲む」の尊敬語は「**召し上がる**」。「いただく」は**謙譲語**なので、先生の動作には使えない（よくある誤り）。
(5)	**おっしゃる** **（言われる・お話しになる）**	「言う」の尊敬語は「**おっしゃる**」。謙譲語の「申す・申し上げる」と混同しないこと。
(6)	**イ**	「聞く（尋ねる）」の謙譲語は「**伺う**」。ア「お聞きになる」は尊敬語なので、自分の動作には使えない。ウ「申し上げる」は「言う」の謙譲語、エ「いただく」は「もらう・食べる」の謙譲語で、どちらも「聞く」の意味にならない。
(7)	**ご覧になりました** **（見られました）**	**二重敬語**の訂正。「ご覧になる」で**すでに尊敬語**なのに、さらに尊敬の「れる」を重ねて「ご覧になられる」としたのが誤り。敬語は**一つの動作に一回**。「ご覧になりました」か「見られました」のどちらか一方にする。
(8)	**しております** **（しています）**	**身内への尊敬語**の訂正。「母」は**自分側（内）**の人なので、外の人である先生に話すときは尊敬語ではなく、へりくだった言い方にする。「していらっしゃいます」→「しております／しています」。「お母さんが」と呼ぶのも不適切。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【敬語を決める三つの手順】

①　**だれの動作か**を見る。→　相手側なら**尊敬語**、自分側なら**謙譲語**。

②　**特別な形の動詞**を覚える。→　尊敬語：いらっしゃる・おっしゃる・召し上がる・ご覧になる／謙譲語：伺う・申し上げる・いただく・拝見する・お目にかける。

③　**重ねすぎていないか**を確かめる。→　「お～になられる」「拝見させていただく」などは二重敬語に

なりやすい。

※　家族・自分の学校の人の動作を外の人に話すときは**謙譲語**。これが中学生の最大の落とし穴。

四　君は「最後の晩餐」を知っているか　の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**イ**	「君は……知っているか」という**呼びかけ**は、読者を一人の相手として会話に誘い込む書き方。「知っているか」と問われると、読者は「どんな絵だろう」と確かめたくなり、**自分の目で見ようとする姿勢**が生まれる。ア「反省させる」、ウ「従わせる」は、読者を見下す読み方で誤り。
(2) 3 点	**ア**	作者は**レオナルド・ダ・ヴィンチ**、場所は**ミラノの修道院の食堂の壁**。「持ち運べる絵」ではなく**壁画**であることが、のちの「損傷」「修復」の話につながる重要な事実。
(3) 3 点	**イ**	題材は、キリストが**裏切りを予告した瞬間**と、それを聞いた**十二人の弟子たちの動揺**。「静かな場面」「なごやかな場面」を選んだ答えは、この絵の緊張感を読み取れていない。
(4) 6 点	**（例）消失点がキリストの顔に重なり、見る人の視線が中央に集まること。（31字）**	「**消失点がキリストの顔（中央）に置かれている**」（3点）＋「**見る人の視線がそこに集まる／キリストが中心として際立つ**」（3点）の二点で採点。 「遠近法が使われている」だけで効果が書けていないものは3点。消失点を「画面のすみ」「窓の外」などとしたものは0点。 「〜こと。」の形でなければ－1点。二十五〜三十五字から外れたら－1点。
(5) 3 点	**イ**	三人ずつ四つのまとまりにすることで、弟子たちの**はげしい動き（動揺）**を見せながら、画面は**ばらばらにならず秩序を保つ**。「動き」と「秩序」という**両立**がポイント。エ「左右が全く同じ形」は誤り。
(6) 3 点	**イ**	背後の窓から入る明るい光が**キリストの姿を浮かび上がらせ**、暗い室内との明暗の差によって中心人物であることを示す。遠近法（消失点）と明暗が、**どちらも視線を中央へ導く**という点で重なっていることに気づけるとよい。
(7) 5 点	**（例）人体のしくみを知り、人物の動きや表情を自然に描いたこと。（28字）**	「**人体のしくみ・体の構造や動きを理解して**」（3点）＋「**人物の姿・動き・表情を自然に（正確に）描いた**」（2点）で採点。 「解剖学を研究した」と問いの言葉をくり返しただけで、**絵にどう結びついたか**がない答え、「科学が好きだった」など絵に結びついていない答えは0点。「〜こと。」の形でなければ－1点。二十〜三十字から外れたら－1点。

(8) 5 点	**（例）湿気に弱いテンペラという技法で壁に描かれたため。（24字）**	「テンペラ（という技法）で描かれた」（３点）＋「**壁画は湿気などに弱く傷みやすい**」（２点）で採点。 「古いから」「戦争のため」だけの答えは０点。技法に原因を求めていることが条件。「～ため。」の形でなければ－１点。二十～三十字から外れたら－１点。
(9) 3 点	**イ**	構成は**①読者への呼びかけ　②作品の概要（作者・場所・題材）③技法の分析（構図・遠近法・明暗など）　④絵の見方についての主張**。「分析をしてから主張へ進む」という**説明文の型**をおさえる。

四　君は「最後の晩餐」を知っているか　の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(10) 4 点	**ア・イ・ウ**	エ…壁に描かれた壁画で、損傷も進んでいるので×。オ…本文にそのような記述はなく、ダ・ヴィンチは多くの作品を残しているので×。 **ア・イ・ウの三つがそろって４点（完答）**。一つでも足りない、または誤りを含むものは０点。
(11) 6 点	**（例）知識をもって細部まで見ることで、絵の面白さが分かり、鑑賞が深まるということ。(38字)**	「**知識をもつ／仕組みを知る**」（２点）＋「**細部までよく見る**」（２点）＋「**鑑賞が深まる／絵の面白さが分かる**」（２点）の三点で採点。 「絵はすばらしい」など**感想だけ**の答えは０点。「知識はいらない」と逆にしたものも０点。三十～四十字から外れたら－１点。
(12) 5 点	**（例）以前は絵を何となく見ていたが、構図や明暗を知って細部を見ると、作品の面白さが分かると気づいた。(47字)**	**【ルーブリック】** **・５点**…「読む前の見方」と「読んだ後の見方」の**変化**が書かれ、変化の理由に**この文章で学んだ観点（構図・遠近法・明暗・科学的観察など）**が具体的に示されている。 **・３点**…変化は書けているが、観点が「くわしく見る」など**抽象的**で、教材から学んだ具体が示されていない。 **・１点**…感想のみ（「おもしろかった」「絵が好きになった」）で、見方の変化になっていない。 **・０点**…無解答、または本文と無関係な内容。 ※　四十～五十字から外れたら－１点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ）】

1. これは**説明文（鑑賞文）**であって物語ではない。「気持ち」ではなく「**効果**」「**働き**」「**理由**」を答える。
2. 冒頭の「君は……知っているか」は、ただの問いかけではなく**読者を鑑賞に引き込む工夫**。語り口そのものが出題される。
3. 「最後の晩餐」は**壁画**。この一点を落とすと、損傷・修復の話がつながらなくなる。
4. 題材は**裏切りの予告を聞いた瞬間**。「静かな食事の場面」と思い込む誤りが多い。
5. **遠近法の消失点がキリストの顔に重なる**のが最大の仕掛け。「遠近法が使われている」だけでは答えになっていない。
6. 四つのグループの構成は「**動き**」と「**秩序**」**の両立**。片方だけでは説明が足りない。

7. 明暗（背後の窓の光）も遠近法と同じく**視線を中央へ導く**働きをしている。二つを結びつけて理解する。
8. 筆者の結論は「感じるままに見ればよい」ではなく、**知識をもって細部を見ると鑑賞が深まる**。ここを逆に書くと大きく失点する。